

合格力養成期「本試験テクニカル分析講座」使用テキスト

正確さの養成

「基礎の完成」の次の段階は、学習対象について、「正確さを養成」することです。

誰でもが見たことのある基本的な学習対象を、正確に、学習することは、合格にとってなくてはならない重要な準備です。

山本浩司の雑談室2

「短期合格」

7月22日と23日の記事で書いたように、合格のために必要な知識は全問のうち60%にすぎません。

まず、以上は、数学的な事実であることをご確認くださいと思います。

では、なぜ、全体のうち、たったの60%の制覇ができない受験者が、毎年、かくも多く存在するのでしょうか？

その理由は、上記の60%という数字の中身にあります。

この数字には大事な前提があり、その前提を満たしたときだけ、合格が可能なのです。

では、具体的に述べましょう。

次の場合に、受験者は60%の正解率で合格をすることができます。

1. 60%の正誤を間違えない。
2. 残りの40%は知らないから判断しない。

つまり、正誤の判断を間違えたり、よく知らないことを無理に判断すると、とたんに正解率が下がります。

79

「山本浩司の雑談室2」は、山本講師のブログです。
「山本浩司 楽天ブログ」で検索してみてください。

その他のテクニック

学説問題の章の最後に、他のテクニックをご紹介します。

基本的な考え方は、「試験問題は、何をヒントに解答を導き出してもよい、ただのパズルにすぎない」ということです。

以下、ランダムに、解法のテクニックをご紹介します。

最初は、「目のつけどころ」の話です。

「オートマチック憲法」にも引用しましたが、過去に書いたブログの記事をご紹介します。

問

13

次の対話に、人権に関する規定が私人間にどのように適用されるかに関する、授と学生との対話である。後記の文章群の中から適切な文章を選択して対話を完成させた場合、(①) から (⑤) までに入る文章の組合せとして最も適切なものは、後記1から5までのうちのどれか。

……………(憲法H19-1)

教授： 憲法の人権規定が私人間にどのように適用されるかについては、いわゆる直接適用説と間接適用説がありますね。これらの二つの理解について、どう考えますか。

学生： 私は、間接適用説が妥当と考えます。なぜなら、(①) と考えるからです。

教授： その理由からは、直接適用説又は間接適用説のいずれも、当然には導くことはできませんよ。では、直接適用説に対する批判としては、どのようなものがありますか。

学生： (②) という批判があります。

教授： その批判は、沿革的なものですね。直接適用説を採用することにより生じる問題としては、どのようなことが考えられます

「基礎の完成」と「正確さの養成」を重視!

山本オートマチックでは、テキストも講義も「基礎」や「正確さ」をとても重要視します。「知識量」が増えても理解や記憶が不確かな知識は、本試験で役に立たないからです。

そこで、「正確で使える知識」を養成するため、「正解率」などの根拠のある数字を元に学習範囲が極限まで絞り込まれています。確かな知識があるからこそ、解法テクニックなどの応用力が効果を発揮します。